

石川県で最大震度7、M7.6

倒壊や火災で被害相次ぐ



地震で倒壊した家屋＝1月2日、石川県輪島市（證史朗さん撮影）

生活と健康を守る新聞1月28日号より転載

能登半島地震被害へ支援を！



山口県本部版

NO. 305

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟

山口県本部

〒754-0004

山口市小郡金堀町

21番の1

林洋武方

電話&FAX

083 (972) 3987

◆ 1月28日投開票の岩国市長選で「岩国の自立の目指す会」

の米重まさひこ候補は、7,669票(得票率21.1%)と善戦しました。

県内で行われる今年の選挙は、4月14日下松市長選。

4月21日美祢市長、市議選。5月26日周南市議選。

11月13日(任期満了日)光市長、市議選。周防大島町長、

町議選。11月21日(任期満了日)宇部市長選。

11月26日(任期満了日)防府市議選。

◆ 国賠同盟今年の主な行事

◎ 3月 2日(土) 中国ブロック会長事務局長会議(出雲市)

◎ 3月 15日(金) 市川正一碑前祭(光市鮎返り)

◎ 5月 12日(日) 田中サガヨ墓参り・学習会(下関豊田町)

◎ 6月 第41回全国大会(東京・全労連会館)

◎ 8月 15日 終戦記念日・全国一斉街頭宣伝

◎ 10月 中国ブロック交流会(島根県出雲市)

◎ 11月 9、10日 第33回全国女性交流集会

(愛知県蒲郡温泉郷)

◎ この間に2024年度県本部総会。毎月一回役員会議

◆ 重税反対全国統一行動。3月13日県下各地で

◆ 「上関原発をつくらせない山口県民大集会」3月23日(土) 山口市維新百年記念公園・野外音楽堂で午前10時から。

ことしの墓前祭

5月12日(日)予定



田中サガヨ

1910—1935



昨年の墓前祭(7回目)
25名参加
企画などご意見を!

山口県豊浦郡豊田町で酒造業を営む家に生まれ、4歳で養女にだされ、養父の死去で実家にもどる。下関の長府高女卒業後、タイプを習い、兄堯平(戦後山口県から日本共産党国会議員に当選)を頼って上京。兄の影響で思想的にめざめ、検挙された兄への差し入れなどに奔走するなか、「私のようなものでも、一生懸命やれば何かできるかしら・・・」と問い、実践活動に入る決意をかためる。

32年入党。「赤旗」の中央配布局で「赤旗」の配布などの活動に従事。考え深く静かな、頼りがいのある人であったという。33年宮本顕治現議長が逮捕された翌日、12月27日夜、空腹で公園の水を飲んだのを特高に怪しまれ、銀座4丁目の服部時計店まえで検挙される。留置所で監視の目を盗みチリ紙に鉛筆で書いたメモで逮捕を肉親に知らせる。そこには「信念をまっとうする上においてはいかなるいばらの道であろうと、よしや死の道であろうと覚悟の前です」と記されていた。拷問と留置場の劣悪な待遇で健康を害し、家族の保釈願いもいれられず、35年4月24日、重体で市ヶ谷刑務所で執行停止。東大分院に入院、20日後の5月14日、24歳の青春のただなかで短い生涯を閉じる。

—1992年2月宮本顕治議長(当時)が戦前の4人の女性党员を紹介。

伊藤千代子、高島満兎、田中サガヨ、飯島喜美 みんな24歳の生涯。—

私の戦争体験 北朝鮮の難民であった頃(2) 林洋武

第一章 敗戦 昭和二十年八月一日

その日の朝、父(55歳)も母(49歳)も落ち着きませんでした。「昼に重大なニュースがある」と言うことが伝えられ昼ご飯は早めにちゃぶ台が用意され両親と姉と私が席に着きました。ラジオが重々しい声で何か言っていました。その後アナウサーの声に変わりました。父が絞り出すような声で「負けた日本が降伏した。今のは天皇陛下のお言葉だ」とつぶやくように言う。母が泣き出しました。姉(国民学校六年生)は「日本が負けることがあるの。神風は吹かないの」と父に質問してみんなが箸を置きました。私(同四年生9歳)だけが箸を動かしていたので姉が「洋武くんなどときにも食べろの」と非難しました。「日本が負ければアメリカ人は有色人種を奴隷にする。親や兄弟もばらばらに売り飛ばされる。アメリカには絶対に負けるわけに行かない」と校長先生が繰り返していたのを思いだし、私も奴隷にされるのかと急に悲しくなってきました。今の北朝鮮平壤の郊外になる順安面(面は村)にあったあの「終戦の詔勅」の昭和天皇のラジオを聞いたわが家の出来事です。

父も母も呆然としていました。私は活発な子でじっとしておられません。国民学校に行きました。町は静かです。

通りもありませんでしたが。学校には満州から避難してきた人たちがいっぱい。校庭には縄が張られ洗濯物がたくさん干してありました。校庭の裏にある校長先生の官舎にはエプロン姿のおばさんたちが慌ただしくしていました。開放された座敷には大きなおなかをむき出した小母さんが横になり「がんばるのよ。しつかりするのよ」と声をかけていました。赤ちゃんが生まれようとしていました。赤ちゃんが無事生まれたのかどうかわかりませんでした。

面長さんの家では「独立万歳」が

私の国民学校は日本人だけの学校で、全校30名くらいのうち二人の朝鮮人の友人が通っていました。一人は面長の息子杉山君でもう一人は金融組合の専務の息子新井君でした。二人と私と同じ学年で教育勅語も天皇128代も暗記するなど優等生でした。杉山君の家に行きますと感じが全く違っていました。部屋には日の丸が半分S字状に墨が塗られ「こうすると朝鮮の国旗になる」と説明されげんなりしました。面長の家を出るとその隣家の渋谷義江さんが待つていました。「面長さんの家ではね、家中でトンニム「独立」万歳と叫んでいるのよ。悔しい」と報告にきました。学校の行事では面長さんが必ず顔を見せ時には挨拶もしていました。ただに訳がわからない衝撃を受けました。(つづく)